

帰国子女の中学生に対するビジュアルリテラシー教育を中心に据えた国語授業の実践と研究

佼成学園中学校・高等学校 野上 耀介

実践年度
2025年

実践背景

【現状の課題】

本校中学グローバルコースには、海外生活経験を持つ「帰国子女」が一定数在籍している。日本の公立小学校卒業生と比較し、漢字・文法・作文能力においてハンディや不安を抱える生徒が見られる。帰国子女の日本での教育について、言語的なハンディのカバーを目的とした補習・サポートのノウハウは蓄積されてきたものの、「国語教育」に特化したカリキュラムが構築できていない。それゆえ、特に国語授業への動機づけや学習方略について、一般生徒よりもより細やかな工夫が求められる。

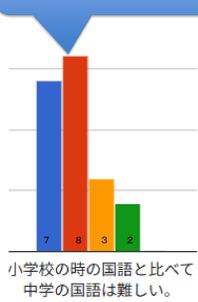
【目指す成果】

基礎知識の習得と並行し、ビジュアル化を通じた概念的な理解を図ることで、言語能力の差を超えた深い理解に到達させ、学習者の国語授業への動機づけの効果を高めることを目指す。

【仮説】

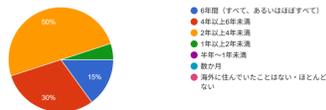
国語授業に困難を感じている生徒ほど、ビジュアル化をゴールとした単元設計により、深い概念理解に到達でき、より主体的な学びの姿勢を構築できる。

「とても思う」「そう思う」の回答が当該生徒の75.0% (学年全体で53.2%)



実践方法/取得データおよび検証方法

あなたは小学生の間（おおむね6~12歳）、どのくらいの期間海外に住んでいましたか。分からない場合は、わかる範囲で1つ選択してください。



【対象】 佼成学園中学校
1年6組(グローバルコース)20名
(クラスの内、「帰国子女」を対象)

*ここでいう「帰国子女」とは、本校入学生徒のうち、小学時に1年以上日本国外に居住し学校生活を送った生徒を指す(図1)。

【期間】 2025年6月(1学期)および11月(2学期)

【内容】 学びのビジュアル化をゴールとした単元

ニュース制作

①「真実はひとつじゃない!? 体育祭スカーフ合戦」
ベーステキスト『ニュースの見方を考えよう』(池上彰)

新聞制作

②「号外! かぐや姫と地球の別れを伝える竹取新聞」
ベーステキスト『竹取物語』

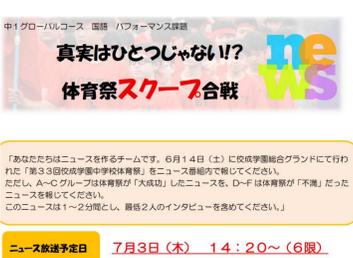


図2: ニュース制作課題提示

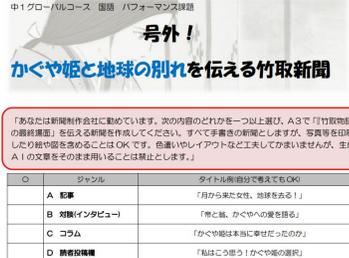


図3: 竹取新聞制作課題提示

それぞれテキストベースの学びの単元の最後に図2・3の課題提示を行い、読解内容を視覚的に表現する活動を設定。また、単元終了後に、「内容理解」に関する問いとビジュアル化による内容の深まりに関する問いを記述式で行う(定性的データ)。さらに、年度当初と2学期終盤に行った「国語授業に対する取り組み・認識のアンケート」(定量的データ)を組み合わせることで、帰国子女生徒におけるビジュアルリテラシー教育を中心に据えた国語授業の効果を測る。

結果

ニュース制作

【内容理解に関する問い】
■「あなたはメディアに触れるときに、どのようなことを意識しようと思いますか。」(図4)
・「メディアリテラシー」「見分ける」「判断」「考える」「比べる」
☞自分で「判断」し、他と「比べる」ことで真偽を「見分ける」批判的なものの見方
・「SNS」「共有」
☞身近な実社会や自身の経験と結びつけた理解の深まり

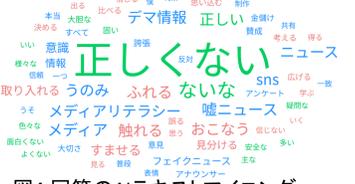


図4: 回答のAIテキストマイニング

【ビジュアル化による内容の深まりに関する問い】

■「テキストを扱うだけでなく実際にニュースを作ることでのどのような理解の深まりがありましたか。」
・「思ったよりもインタビューをたくさんとらなければいけないことに気づいた。30秒を取るのに何度も撮りなおしたりするのは、本文で書いていたことそのままだった。テキストだけの理解より、ニュースがどう伝わるかを考えるようになった。」
・「映像をどこで切るかを考えるのがとても大変で苦労したところだった。池上さんの文章には書いてなかったけど、表情や周りの様子も相手に情報を伝える手段? になると思った。」

☞制作過程におけるテキスト理解の深まりと発展的な気づき

・「文章を読んだときはわざとメディアが正しくない情報を伝えているように思っていたのですが、実際に作ってみるとわざとではなくてもつい思いがなくなって相手に違う伝わり方をしたり誇張したりしてしまうと思いました。」

☞テキストに対する批判的なものの見方や捉えなおし・葛藤

新聞制作

【内容理解に関する問い】
■「あなたは『竹取物語』のどの人物や出来事への理解が深まりましたか。」(図5)
「幸せな」「優しい」「大切に」「良い」「立派な」「すごい」「かわいそうな」「悲しい」「未練」「不安な」「手放す」

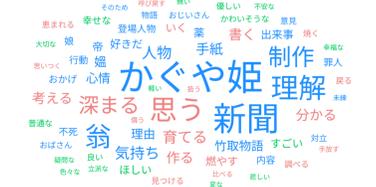


図5: 回答のAIテキストマイニング

【ビジュアル化による内容の深まりに関する問い】

■「絵や映像を見たり自身でビジュアル化することはどのような効果をもたらすとあなたは考えますか。」

・「その人と気持ちが深まるだけでなく周りの人もどういった気持ちなんだろうというもっと深くなり」

☞文学作品の「視点」の特徴、物語の再解釈

・「記憶として残り、学習効果を高めることができる。また見る人の想像力を働かせてくれることもある。」

☞効果的な学習方略への気づき

・「国語授業に対する取り組み・認識のアンケート」(平均値)

	評論文に対する得意意識	小説文に対する得意意識	筆者の主張や物語のテーマを読み取ること
4月	2.40	2.35	2.30
12月	2.75	3.10	2.90

1難しいと感じる⇔5簡単と感じる

3項目で有意差あり
☞特に「小説文～」で有意差が強い

考察と今後の課題

・学びのビジュアル化をゴールとした単元設計により、概念的な理解を促すことができ、効果的な学習方略への気づきにより、特に小説文に対する国語授業への動機づけが高まる。

☞「帰国子女」以外の生徒との対照実験ができなかったのが課題。他生徒との差異や国語の様々な能力の差を基にした分析を行い、「帰国子女」生徒に対する効果的な学習方略の研究を行いたい。